

週報

こひつじ

第40巻 46号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

縁を結んではならない

その三 この世は欺瞞的である

この世の精神の第二の特色は、治家を彼の閣僚にと推薦したとき、何よりも外側を大切にする点にある。彼はにべもなく断わった。なぜか。ところが永遠の世界では、内と問われて、側が問われる。職業や役職、業績「顔が気に入らない」より、私たちがどんな人間であるか、それがもっとも大切なものとして答えたという。友人が当惑して扱われるのである。友人が当惑しているのを見て、リンカーンはさ

らにこう言った。ライオンや豹、キリンなどの動物「四〇歳を過ぎたら、人はみな自分にとつては外観がすべてだ。彼ら分の顔に責任を持つべきだ。その

がお互いに区別されるのは、彼ら人がどんな人生を送ってきたかは、その顔が如実に物語るものなのだ。しかし人間を区別するのは胴体で

から」ではない。顔である。ではどうやって顔はつくられるのか。アメリカの大統領リンカーンが問

題にしたのもそこだった。「人間とその顔」の著者ピカートが友人が来て、ひとりの有能な政

「人間の顔は、人々にというよりも、むしろ神に対して捧げられている。人間の顔はなによりも先ず造物主への返答である。顔は造物主に対して答えるのだ」

神に対して何の道徳的決断もせずに人生を終えた人の顔は、生まれながらのままにとどまり、生気がなく、無表情で、うつろにならざるを得ないだろう。

このように顔をつくるのはその人の内的生活だ。誠実な顔は誠実な心によって、勇氣ある顔は勇氣ある心によってつくられるだろう。ところがこの世は、私たちがその内的生活を奪おうとするのである。

最後に、忘れてならないのは、この世が欺瞞的であるということだ。この世で大切と思われるものはみな、あるようでない。この世の富、成功、称赞、恋愛、どれもやがて消えてなくなる。それらすべて幻影である。

だからそれにおぼれない。深入りしない。

それらのものにだまされないうめには、常に本物は何かと考える。

イエスもこんな話をなさった。ある金持ちの畑が豊作だった。「どうしよう。作物をたくわえておく場所がない」

彼は、考えた末にこう言った。「もっと大きな倉を建てて、そこに全部をしまいこもう。そして自分のたましいにこう言おう。たましいよ。おまえには長年分の食糧がたくわえてある。さあ、安心せよ。食べ、飲め、楽しめ」

すると神は彼に言われた。「愚かな者よ。あなたのたましいは今夜のうちにも取り去られるであろう」

こうして彼は自分のたくわえた富をすべて残して、死んだのである。彼の人生の失敗はどこにあるか。

人生の手段にすぎない富を、究極の目的としてしまったことだ。富は彼を欺いたのである。

このように私たちは、しばしば偽物に心を奪われ、本物を見失ってしまう。

「世と縁を結んではならない」とは、欺瞞的なこの世のものにだまされないうめ、本物に目を留めよ、

という神の強い促しの言葉なのではないか。

私たちを指導してくださったボストロム宣教師は、私たちを戒めて、よくこう言われたものだった。「何事もゆるやかに握れ」

地上のものは、どんなにしがみついても必ず手放さなければなら

ないときが来る。それらはもともと私たちのものではないのだから。

仕事も家族も健康も、やがて、

私たちの手から離れてゆくだろう。

だから、地上のものへのこだわりは捨てよ、ということなのだろ

う。そこでスイスの思想家ヒルティは言った。

「他の人が欲するままに任せておいてよいことが、世には限りなく多い。結局、それはどうでもよいことだから。そうすれば、自他ともに生活が非常に楽になる」

(終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、
第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。
○説教は米村牧師。

先週の礼拝

先週の出席

礼拝参加者は七九名(男二八、女五一)。それに子どもが三名、合わせて八二名でした。
そのほか森田さんのご家族が約二〇名参加されました。
また、礼拝後は、教会墓地で、納骨式が行われました。

お詫び

先週は、旅行中で、週報の発行ができず、したがって礼拝を休まれた方への週報発送も行なわれま

せんでした。さらに私のパソコンが壊れ、住所録を失ったため、先週の礼拝(森田さんを送る会)が、合同礼拝(午前10時)となったことを電話でもお知らせすることができず、迷惑をかけましたこと、おゆるしてください。

旅行の報告(一)

一月一四日(木)から二日間にわたって西宮福音教会と堺福音教会で開催されたJEC(日本福音教会)の「婦人セミナー」では、

「出会いについて」「祝福する者となるために」と題して、それぞれ二回のお話をしてきました。西宮の会場には約八〇名、堺の会場には約一三〇名の参加があり、お送りしていたぼくの本も一七〇冊ほど購入してくださいました。
滞在中ずっとぼくたちのお世話してくださったのは西宮で伝道されている吉野牧師夫妻でした。吉野牧師は天津教会の西岡誠也さん

の友人で、天津教会を四〇年ほど前に訪ねたことがあるとおっしゃっていました。(次号に続く)